

大画面液晶で大量の情報を正確に表示 研究発表の説得力が向上し、ディスカッションも活発に



導入先

国立大学法人 北海道大学さま

- 北海道／札幌市
- 1876年に創設された札幌農学校を起源とする国立大学。学生数約1万8千名。「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」、「実学の重視」を教育理念として掲げ、国際的な教育研究の拠点を目指している。



導入商品

タッチディスプレイ「BIG PAD」

PN-L702B(70v型)×1台

- 2012年2月、情報科学研究科・山本強教授の研究室に研究発表などで活用する大型のタッチディスプレイを導入。
販売：株式会社ウチダシステムソリューションさま

こんなソリューションを実現しました。

導入前の課題

情報ネットワーク分野の研究で大量の情報を取り扱うシステムが増加しており、それら多様な情報を一度に表示できる大画面のディスプレイが必要でした。またプロジェクターではCG等を表示する際、歪みが生じるといった課題も抱えていました。

液晶なのでCG等も歪みなく表示可能。プロジェクターに匹敵する大きさにも満足しています。

タッチ操作で学生の研究発表の説得力がアップ。ディスカッションもより活発化しました。

可動式なので研究室から講義室に移動させて学部説明会に利用する等、用途が広がっています。



北海道大学大学院
情報科学研究科
メディアネットワーク専攻
工学博士 山本強教授

■ 導入の背景

大画面で直感的な操作が可能なタッチパネル。研究活動の幅や質を向上できると考えました。

現在、我々の研究領域では「ビッグデータ」と言われる大量の情報を取り扱うシステムが増えてきており、多種多様な情報を1画面で表示させるにはディスプレイの大型化が必要不可欠でした。また直観的な操作が可能なタッチパネルにも以前から興味があり、単なる表示端末としてだけではなく、我々の研究活動の幅を広げるツールとしても魅力を感じました。

■ 選ばれた理由

表示の正確さが求められるCG画像等を取り扱うため、歪みなく大きく表示できることが重要でした。

我々はコンピューターを使った画像・映像の生成、合成や情報ネットワークの分野を研究テーマとしていますので、CG画像等、形に対してより厳密な表示が求められる素材を多く扱います。従来プレゼンテーションで使用していたプロジェクターでは、スクリーンによって歪みが生じるといった問題が起きていました。その点、BIG PADは液晶なので歪みもなく表示でき、プロジェクターにも匹敵する70インチという大画面でしたので迷わず導入を決めました。



付属のペンで画面に書き込みをする山本教授

■ 導入後の効果

研究発表の説得力・伝達力がアップ。ディスカッションもしやすく、コミュニケーションが活性化。

このツールの魅力は発表者と聞き手の距離が近くなること。プロジェクターのように影を気にする必要もないので、発表者も聞き手も、より表示画面の近くに集まることができます。発表者と聞き手の距離が近いと、一方的な発表にとどまらず、すぐにディスカッションすることができ、コミュニケーションがより活発になりました。また説明しながらタッチ操作で画面を拡大縮小したり、ページを送ったりすることができるので説得力や伝達力もアップ。学生の研究発表の内容もレベルアップしてきました。



発表者と聞き手との距離が近く、ディスカッションもより活発に

■ 今後の展望

研究者としてBIG PADに可能性を感じています。

我々は研究者ですので、単なる利用者ではありません。我々が様々な想像力を働かせて、このBIG PADのような機器のアプリケーションを開発し、新たな使い方や魅力を引き出すことも研究者として興味深いと考えています。



スタンドの裏側にはPCの設置台が備えつけられている